

市子連60周年記念 日々の子ども会活動を発表

10月6日、和歌山市子ども会連絡協議会（以下、「市子連」と）と和歌山市教育委員会主催による和歌山市



あいさつする坂東恵子・市子連事務局長

子ども会60周年記念大会が和歌山市民会館でひらかれた。この記念大会は、52年の西川県議会議員差別事件



「子どもの権利条約」を群読する杭ノ瀬子ども会

(2頁よりつづく)

課題にたいして1日も早い解決を強く要求し、個別の課題については継続的な話し合いをおこなう。

■橋本市（9/24）

木下善之・橋本市長から

「同和問題は国民一人ひとりの課題であり、行政の責務であるとの認識のもと、積極的に同和問題の完全解決に向けてとりくんできたが、昨年12月に差別メール、差別発言があいつぎ、迅速な対応ができてなかったことに深く反省している」とあいさつがあった。基本要

求と橋本市で発生した差別事件や職員への人権・同和研修の実施体制について交

■串本町（10/10）

平見・県連書記次長から

「3年前に串本町民が新宮の住民に差別メールを送る事件が発覚した。お互いが知恵を出し合って部落問題解決に向けた町民啓発のあり方を考えなければならぬ」と強く求めた。田嶋勝正・町長は「住環境をはじめ、さまざまな取り組みをすすめてきた。今後も町職員を人権研修の場に参加させ、人権意識の向上を図っていく」とあいさつした。

2012年対和歌山県交渉では、これらの事実を提起し行政の責任の明確化を求めた。すべての市町村に「本人通知制度」を導入しよう。

狭山事件を 考えよう



不当逮捕13カ年糾弾」の同盟休校が全国各地でとりくまれることになり、私の地域の子ども会も子ども達と話し合いを続け、小学生を除く中学生5人で同盟休校をおこなうことを決定し、中学校にたいして、同和加配教員の派遣と子どもたちの出席扱いを申し入れるなど準備をすすめてきました。

私は、21歳ごろに狭山事件とであうまで中学や高校の授業で、三権分立立法権・行政権・司法権によって私たちの生命と生活が守られていると信じていました。この年は、第1審の死刑判決を受けて石川さんが東京高等裁判所に控訴してから10年が経過し、早期結審に向けて連続公判が進められていました。そして、10月31日判決公判の日を迎え、寺尾裁判長は第1審死刑判決を破棄し「無期懲役」の判決を下したのでした。これは非常に政治的な判決であり、石川さんのご両親が支援者に向かつて「一雄は何もやってない無実です」と涙ながらに訴えられ、大変悔しい思いをしたことを今もはつきりと覚えています。この判決を受けて、地域で復活させた子ども会の活動をふりかえり、子ども達に差別に負けずはね返す力と高校・大学へ進学できる学力を身につけるように指導してきました。そして、2年後の5月23日「石川一雄

こうしたことから、青年部の活動に参加するようになり、数年後には県連専従となり、数年前には現在専従として石川一雄さんの無実を晴らすために運動を展開してきました。まもなく専従としての定年を迎えますが、運動には定年がないので、死ぬまで運動に参加していきたくと思っています。

(小西 孝)

あなたの個人情報 守られていますか

主張

昨年、大阪市長選挙をめぐって「被差別部落」出身の彼に対して、ネガティブキャンペーンが繰り返された。今年に入ってから、橋下・大阪市長が「日本維新の会」を立ち上げ、国政に打って出ようとした矢先に、またもや週刊誌（「週刊朝日」）が暴露記事連載しようとした。内容は、さきの大阪市長選挙におけるキャンペーンと類似しているが、差別文書そのものであると指摘しなればならない。橋下市長の政治手法を批判するのではなく、橋下家のルーツを暴露し被差別部落出身の父親を引き合いに出し、「DNA」「血脈」などがあ

って大きな影響があると考へ、「連載」まで考えていた「週刊朝日」の責任は重大である。なぜこのようなキャンペーンが企画されたのか問う必要があるが、考えなければならぬのは、社会に被

差別部落に対する予断や偏見が根強く残っており、社会意識としての差別観念や意識を巧みに悪用し、一方を利する行為としておこなわれてきている。戸籍や住民票の不正取得事件が後をたたない現状からも、「出

自」を探る行為として繰り返されてきていることがわかる。昨年11月に発覚した「プライム社」による不正取得事件は、犯人は逮捕され有罪になったが、ほとんどが身元調査に悪用されてきた事実があらにされ

た。これと氷山の一角と考へなければならぬ。2012年対和歌山県交渉では、これらの事実を提起し行政の責任の明確化を求めた。すべての市町村に「本人通知制度」を導入しよう。

文化の窓

ドキュメンタリー映画 100年の罅 大逆事件は生きている

1910年、日本中を震撼させた事件が起こり人びとはその恐怖に怯え口を噤んだ。大逆事件である。天皇の暗殺を企てたとして26人が逮捕され、24人に死刑判決が下された。しかし、この事件のほとんどがえん罪事件であり、国家による思想弾圧事件であった。「100年の罅」は大逆事件に連座され志半ばで散っていった人権活動家からのメッセージかもしれない。

◆上映会

日時 12月5日、午後6時30分

会場 新宮市民会館

◆問い合わせは県連まで
073-473-2301